

平成 27 年度

社会貢献者の記録



平成 27 年度

社会貢献者の記録

目次

まえがき	003
瑠子女王殿下のお言葉	004
表彰選考委員プロフィール	005
式典次第	006
会長挨拶	007
表彰選考委員長挨拶	008
受賞者代表挨拶	010
記念写真	011
表彰式スナップ写真	012
来賓祝辞・乾杯のご発声	020
祝賀会スナップ写真	022
社会貢献者表彰とは	027
受賞者手記 目次	028
海への貢献の功績	030
社会貢献の功績	036
資料編	132

まえがき

平成27年度の社会貢献者表彰式典は同年11月30日（月）、帝国ホテルにおきまして、瑠子女王殿下のご臨席を仰ぎ、740名を超える皆様のご出席のなかで、49件の受賞者の皆様を表彰させていただきました。

事業の助成を頂きました日本財団をはじめご協力を賜りました関係各位に厚くお礼申し上げます。

さて、本年度は、お寄せいただきました145件の推薦の中から、選考委員会より選考されました「社会貢献の功績」（含、広島市安佐南区等における土砂災害時の救難活動、東日本大震災における復興活動）47件、「海への貢献の功績」2件の計49件の皆様を表彰させていただき、副賞の日本財団賞をお贈りいたしました。

受賞者の皆様は、困難な状況の中で社会や人々の幸福のために尽くされた方々、海の環境の保護に尽くされた方々などの皆様の活動と表彰式や祝賀会の様子をここに「平成27年度社会貢献者の記録」としてまとめました。

この表彰によりまして、受賞者の皆様の善行がより広く世の中に知られ、それにより世の中の善行活動がより豊かになることを願うものでございます。

受賞者の皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げますとともに、当財団の表彰事業につきまして、今後ともご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

公益財団法人 社会貢献支援財団

瑤子女王殿下のお言葉

ただいまご紹介を頂きました、寛仁親王の次女の瑤子と申します。

昨年に引き続きまして、本年も社会貢献者表彰式典にお招きを頂き、ありがとうございます。

平成27年度は、「海への貢献の功績」から2件、「社会貢献の功績」から47件の計49件の受賞があると伺っております。受賞をお受けになる皆様、おめでとうございます。そして選考に携られた選考委員の方々、様々な思いの詰まった活動や行動に対して表彰を決めるということは大変むずかしいことだと存じます。お疲れ様でございました。

社会貢献とは、簡単に説明できるような言葉ではないと、わたくしは思っております。人の見方はそれぞれですので、まわりがどう思うか、どう感じるかなどというのは、とても線引きがしづらいものだと思っています。今回受賞された皆様は、決して奢ることなく、今まで通りに今後も過ごして行って頂きたいと思ひますし、今回受賞を受けられなかった皆様には、一番は、悔いることなく、今までどおり自分のやっていらっしゃることに自信をもってこれからも活動や行動をして行って頂けたらと思っております。

最後に、今後もこの社会貢献支援財団の活動が浸透してゆき、これからも益々発展、そして進化していかれますことをご祈念申し上げて、簡単ではございますが、わたくしの挨拶と代えさせていただきます。



瑤子女王殿下

表彰選考委員プロフィール

委員長



脚本家

内館 牧子

1948年生まれ

東京都教育委員会 教育委員ほか

脚本：「ひらり」「てやんでえっ!」「私の青空」「毛利元就」「エイジハラスメント」ほか多数

委員



元国税庁長官

大武 健一郎

1946年生まれ

関西大学客員教授 認定 NPO 法人ベトナム簿記普及推進協議会理事長

著書：「平成の税・財政の歩みと21世紀の国家戦略」「税財政の本道―国のかたちをみすえて」ほか多数

委員



久米繊維工業株式会社 取締役会長

久米 信行

1963年生まれ

著書：「メール道」「ブログ道」(NTT 出版)「NPO のための IT 活用講座効果が上がる情報発信術」(共著)ほか

委員



ノンフィクション作家

吉永 みち子

1950年生まれ

「羽鳥慎一モーニングショー」コメンテーター

「あさちゃん!サタデー」コメンテーター

著書：「気がつけば騎手の女房」「性同一性障害」「26の生きざま」ほか多数

式典次第

第一部 表彰式

10：30…開 式

- ・ 会長挨拶
- ・ 瑠子女王殿下のお言葉
- ・ 表彰選考委員長挨拶
- ・ 表彰状並びに副賞の贈呈
- ・ 受賞者代表挨拶

12：00…閉 会

第二部 祝賀会

12：15…開 宴

- ・ 来賓祝辞 乾杯のご発声

13：30…閉 会

協力 日本財団

(平成27年11月30日 於帝国ホテル東京)

会長挨拶

皆様おはようございます。ご紹介を頂きました、社会貢献支援財団会長を務めさせて頂いております、安倍昭恵でございます。

本日は、瑤子女王殿下のご臨席を賜わりまして、また大勢の皆様方にご出席頂き、社会貢献支援財団のこの式典が盛大に開催されますことを大変嬉しく、感謝を申し上げるところでございます。皆様方にたくさんの候補者の推薦をして頂きました。また、日本財団には毎回ご支援を賜わっております。あらためて関係各位の皆様方にお礼を申し上げるところでございます。



今回は、社会貢献、そして海への貢献49件の表彰をさせて頂くことになりました。いままで社会のためにご尽力を頂きました皆様、そしてその皆様を支えていらっしゃるご家族の皆様や関係者の皆様に対しましても改めて敬意を表すものでございます。皆様本当におめでとうでございます。

わたくしも何件か過去に表彰されてこられた皆様また、今回表彰された方々の所にも伺って実際にご活動も拝見させて頂きましたけれども、本当に日本というのは素晴らしい国だな、色々なことを言われてはおりますけれども、日本人の底力といえますか、ひとりひとりの確実に何か人のために一歩をすすめておられる皆様のお姿を素晴らしいと感じているところでございます。

どうかこれからも皆様方にはそのご活動を続けて頂きまして、この日本が本当の意味でいい国になりますように、そして今政府の方でも一億総活躍ということを唱っておりますけれども、本当の意味で日本人ひとりひとりが活躍できるような社会になりますように、これからもお力をお貸し頂きますようお願い申し上げます。皆様方の一層のご活躍とご健勝を祈念申し上げ、改めてお祝いを申し上げます。簡単ではございますけれども、お祝いの挨拶とさせていただきます。

本日は本当におめでとうございました。

公益財団法人 社会貢献支援財団
会長 安倍昭恵

表彰選考委員長挨拶

ただいまご紹介に預かりました内館牧子でございます。本日は、瑠子女王殿下のご臨席を賜わりまして、このように盛大に表彰式が出来ますことを、選考委員として大変喜んでおります。

今回の選考過程を含めまして、わたくしからひと言ご挨拶申し上げたいと思っておりますが、報道等により、皆様ご承知のとおり、この9月に塩川正十郎様がお亡くなりになりました。塩川様には平成21年からずっと本賞の選考委員を務めて頂いておりましたが、ご体調があまり芳しくなかったものですから、今回分からわたくしが選考委員長として選考に携さわせて頂きました。皆様と



と一緒に、これまでの塩川様のご尽力に対し心からご冥福を申し上げたいと思っております。

さて、今年度は本年4月末日までにお寄せいただきました145件の推薦から「社会貢献の功績」47件、「海への貢献の功績」2件、計49件の受賞者を選考させて頂きました。

わたくしがこの選考に携って以来、毎回感じる事なのですが、日本には本当に老若男女を問わず、こんなにも社会のために、他人のために力を尽くす人がいらっしゃるのです。そのことにいつも感じ入ります。その中から受賞する方とそうではない方を分けるとするのは、両者に全く差が無いことですから、非常に苦勞致します。

わたくしは一昨日、ある週刊誌を読んでいて、胸に突き刺さる言葉がございました。それは10月31日の渋谷に於けるハロウィンのことなのです。若者たちの仮装パレードで、繁華街は大騒ぎになっていました。皆様ご承知のとおり、ヨーロッパでは農業の豊作を祈る祭りで、子どもは各家を回ってお菓子をもらうという楽しい行事だそうですが、日本では、ここ何年かのうちに大仮装パレードになりました。これはこれでも楽しいお祭りだとは思いますが、若い人は、仮装することによって自分で無くなり、日ごろの閉塞感から解放されたり、高揚したりというものがどれほどあるかと思っております。ただ、わたくしが見た週刊誌には、酔いつぶれてあられもない姿で路上に寝ているたくさんの女の子たち、この女の子たちにいたずらするたくさんの男の子たち、また、雑踏の、人前で平気で着替えをする若者たちがたくさん出ておりました。それはもう「これでもか」という数の写真でした。とてもここではお話しできないような醜態の数々がありまして、わたくしが胸に突き刺さったという言葉は、その写真を撮ったカメラマンの言葉なのです。

カメラマンは盛り場ばかりを50年間にわたって撮っている方だそうで、その方が「日本人のたがが外れた」という言葉を書いております。そして「もうここは日本ではない」とも書いてありました。わたくしも写真を見ながら全く同感だと感じました。日本人はもしかしたら、たがが外れてしまったかもしれないと思わざるを得ない多くの写真だったのです。

恐らく、たがが外れたとしたならば、それには多くの理由があるでしょうけれども、

ひとつには「何でもアリ」「何でもオンリーワン」という寛容過剰な考え方が一因であったのではないかと、わたくし個人は考えながらその写真を見ておりました。ただ、大学などで教えていますと、ひとりひとりの若い人は本当にちゃんとしていて、一生懸命に誠実に物事と向かい合いますし、非常に澄んだ目をした良い学生たちなのです。

ハロウィンで騒ぐ若い人に、テレビがインタビューもしていました。それも非常に衝撃だったのですが、「あなたにとってハロウィンとは何ですか？」とマイクを向けたところ、ひとりが「ハロウィンはわたしが最も輝ける場所です」と答えました。もうひとりは「ハロウィンはわたしの居場所です」と答えています。それを聞いた時に、わたくしは「もしかしたらこの人たちはハロウィンでなくてもいいのではないだろうか」と思いました。ただ、例えば自分は、社会に貢献する何かができるかもしれないと考えることは、若い人にはなかなかできないと思います。まして自分から進んで、そういうところで自分の持っている力を発揮して「僕の居場所」「わたしの一番輝ける場所」にするのも若い人には大変難しいことでしょう。

わたくしはテレビのインタビューを見ながら、週刊誌の写真を見ながら、ここにいらっしゃる皆様のことを思い出したのです。皆様の周囲に、力を持って余して、居場所がなくて、居場所を探しているように見える若い人たちがいましたら、ぜひ皆様の活動やグループに引っ張りこんで頂きたいと、そういう思いを持ちました。恐らく、社会のために尽くそうということに気がつかないのが、若さというものだと思います。ただ、彼ら彼女たちは皆様が誘えば、わたくしたちが選考するのに苦しむような、悩むような良い働きをしてくれそうな気がしてなりません。

最後になりますが、曾野綾子元選考委員長がいつも仰っていた言葉がございます。「今回の副賞は社会のため、人のためにお使いになるのではなく、自分のためにお使いください」ということです。曾野委員長はいつも、例えば、小さな自動車が必要だと思ったら、副賞で軽自動車を買ってください。みんなでスタッフと温泉に行ったり、おいしいものを食べたりして、ご自分たちのために使ってください、ということをお仰りされました。そうすることが、またより一層皆様方の明日への活力になるのであれば、これほど嬉しいことはございません。皆様のことですから社会のためにと、思うかもしれませんが、是非この副賞はご自分たちのためにお使い頂きたいと思えます。

過去の受賞者たちが「ご自分たちのために使ってくださいと言われると、それだけで嬉しい、なんだかホッとします」と言われたこともございますが、わたくしたちは皆様が長くこのあとも活動して下さることを望んでおりますし、わたくしたちも少しでも力になればと望んでおりますので、ぜひ副賞は有意義にご自分やグループのためにお使い頂きたいと思えます。

ありがとうございました。そしておめでとうございました。

公益財団法人 社会貢献支援財団
表彰選考委員長 内 館 牧 子

受賞者代表挨拶

受賞者を代表いたしまして、ひとことご挨拶とお礼の言葉を述べたいと思います。

本日はこの晴れやかな席で社会貢献者表彰の栄に浴し、心より感謝を申し上げます。

わたくしは、長野県信鈴会の代表上條和男でございます。わたくしは、声帯がありません。声帯が無くてもこういう会話ができるということを皆さんに広く知って貰いたい、そんな思いでございます。



わたくしたちの会は、病により声帯を取らざるを得なくなった人たちに、再び声を取り戻し、そして生きる喜びと自信を持ってもらいたい、その思いでこの活動を続けております。

長野県に於いては、現在830名の喉頭を失くした方がおられます。しかし、わたくしたちの会に入会している方は130名に留まっております。残りの700名の方は家にこもるか、会話も筆談しかない状態が現状でございます。

先ほどわたくしたちの会を代表して表彰状を受け取った女性について少し紹介いたします。

彼女は20代の時、信州大学病院耳鼻科に於いて自分が担当した喉頭を取った患者さんが、生きる勇気とそういうものを全部失って自殺しかねない、そんな状態の時に、「これでは医療の手落ちだ」と、再び声を取り戻せるという情報集めに奔走し、先進地へ出向き、その方法を持ち帰り、長野県の信大の病院内にその基礎を、根を下してくれました。それ以来57、8年現在は84歳になりますが、若いころの思いをそのまま、いままで続けてきております。いつもわたくしが聞かされるのは、「これはボランティアとかいうけれど、違います。これは愛です。*ずくを出せ、活動しろ」これが彼女の教えでございます。そして今わたくしも喉頭を取って20年になりますが、この会にお世話になり、そしてこの声を獲得できました。

本日はこのような晴れがましい席でこのような言葉を発することができたことに深く感謝を申し上げます。どうもありがとうございました。

*ずく：知恵を使ってサッサと動けという意味の信州弁

長野県信鈴会
会長 上條 和男

記念写真



- | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|----------------------------|----------------------------|---------------------------------|------------------------|------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|------------------------------|-----------------------|--------------------------|-------------------|--------|----------------------------|-------|
| 岩崎 瑞枝
フナトリスリー
アスレチック協会 | 島 武代
あさひ福祉作業所 | 和栗 昌夫
やまづか学園
富里地域支援委員会 | 榎本 恵子 | 高島 法子 | 高倉 正嗣
公益財団法人
ふじのこう文庫 | 小畑 輝海
更生保護法人
岡山会 | 太田 孝昭
社会福祉法人
福田会 | 粟津 浩一
特定非営利活動法人
京都ほんはあむセンター | 西村 和美
特定非営利活動法人
このゆびとーまれ | 田島 浩一
神戸市立住吉中学校
野球部OB会 | | | | | | |
| 尾松 芳輝
サレスリー協賛会
聖海地区住宅 | 大西 連
自立生活サポートセンター
認定NPO法人 | 坪井 節子
社会福祉法人
カリソニとモセンター | 南 楨子
社会福祉法人
北海ののこもり会 | 渡邊 修次 | 松尾 玲子
特定非営利活動法人
ジャパニマック福岡 | 坂上 満
広島川俱楽部 | 西村 伸
うのふなみー | 上野 憲史
京都府立海法高等学校 | 足立 正俊
大光グループ
セービングクラブ | 佐藤 一男
NPO法人
日立理科クラブ | | | | | | |
| 齋藤 充 | 平田 彰宏 | 笹原 留似子 | 高橋 美知子 | 阿部 由季
女子100年の会
命を守る会 | 隅 嘉恭
証美会 | 栗山 さやか | 岩田 雅裕 | 羽田 勝 | 高橋 昭彦
認定NPO法人
うりずん | 草柳 和之 | 横井 秀明
五色園区目玉防炎隊 | 久保 重明
森林インストラクターの会 | 鈴木 とも子
鈴木衛生 会助 | | | |
| 田中 千晶
聖徳障害者福祉センター
介助 | 小泉 祥一
聖徳障害者福祉センター | コースマルセル
美野町福祉センター | 金田 聖夫 | 及川 リウ子 | 鎌田 正裕
肢体不自由児水泳訓練教室
ラジオの会 | 田代 すみ子
かたくり会 | 今野 弘恵
長野県信託会 | 上條 和男
長野県信託会 | 安倍 昭恵
会長 | 中本 忠子 | 安田 未知子
徳島県老人クラブ連合会 | 伊丹 一夫
公益財団法人
公財団法人 | 國井 美保子 | 大石 由紀子 | 山田 新作
特定非営利活動法人
人々の会 | 鈴木 剛生 |

表彰式















